

(令和4年度第2次補正) 地域少子化対策重点推進交付金 実施計画書 (市町村分) 個票

自治体名 松戸市 (都道府県: 千葉県)

本事業の担当部局名 子ども部 子どもわかもの課

| | | | | |
|--|--|------------------------|--------|---------|
| 事業メニュー | 結婚_妊娠_出産_子育てに温かい社会づくり_機運醸成事業 | | | |
| 区分 | 一般メニュー | | | |
| 関連事業メニュー | 3.1.4 ライフデザインセミナーの実施 | | | |
| 個別事業名 | 松戸市中高生と乳幼児のふれあい体験事業 | 新規/継続 (一般財源での実施も含む) | 継続 | |
| 実施期間 | 交付決定日 ~ | 令和6年3月31日 | 事業開始年度 | 平成23 年度 |
| 対象経費支出予定額 ※(注)1 | 999,000 | | | 円 |
| 自治体における少子化対策の全体像及びその 中での本個別事業の位置付け ※(注)2 | (地域における実情と課題及び本個別事業の位置付け) 本事業は思春期の中高生を対象として、乳幼児とその保護者と直接ふれあう体験を行うことにより、命の大切さや、子育ての楽しさ・大変さを知ったうえで、子どもや家庭を持つことについて考えるきっかけづくりと、将来的な虐待予防を狙いとして地域の少子化対策に資する事業である。 以下、松戸市総合戦略における基本目標 I -1に位置付けられる。 【松戸市総合戦略】 本市の将来像 ・少子高齢化に対応する、特色ある自立した都市～多世代がともにいきいきと暮らすことができるまち～ 基本的方向 ・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるとともに子育てしやすいまちづくり、子育て世代にも魅力的な「東京に隣接した子育てしやすいまち」として選ばれるまちづくりを進める。 基本目標 I 子育て・教育・文化を軸とした都市ブランドづくり 1 誰もが輝き、安心して結婚、出産、子育てができるまち | | | |
| | (本個別事業における現状と課題) 体験に参加する生徒の中には、さまざまな家庭環境・生育環境の生徒がおり、中には幸せそうな親子の様子を見て感情が高ぶったり、自分の気持ちが整理できなくなったりしてしまう場合がある。加えて、学校側も体験だけで終わらせてしまい、学校が担うべき事前学習や、市が実施する助産師や保健師による生徒向け講演会の必要性が理解されずに、選択クラスの実施や講演会の未開催等、総合的な体験として不十分な取り組みになっている学校もある。 また、ふれあい体験へ協力していただいている地域子育て支援拠点のスタッフや、保健師等の本市の子ども子育て支援関係者が、思春期に必要なふれあい体験の目的・必要性について具体的に学ぶ機会が少なく、サポートする人材が不足している現状がある。 実施する学校と本市の子ども子育て支援関係者が本事業の目的と効果について学ぶ機会を創出することにより、生徒たちが、より安心して体験に参加できる環境づくりをする必要がある。 | | | |
| | (課題への対応) 前記の課題に対応するため、令和5年度は、支援拠点スタッフや本市の関係者を含めた地域の子育て支援の関係者及び学校関係者に向けに研修会を開催する。 また、生徒向けの講演会の内容を充実させる。 | | | |

| 個別事業の内容 ※(注)3 | 番号 | 項目 | 内容 | ステップアップ | KPI設定 |
|---|----|--------------------|---|---------|-------|
| | 1 | 生徒と乳幼児親子のふれあい体験の実施 | <p>松戸市内の高校と連携し、生後1才半までの乳児の親子が学校に訪問し、高校生とふれあい体験を行う。</p> <p>主な体験内容としては、赤ちゃんとのふれあいの他、母親(父親)から妊娠中の様子について、母子手帳やエコー写真をみながら話を聞いたり、子どもの様子や子育ての楽しさや大変さを聞いたりする。</p> <p>体験は特別教室などに1グループ約7～8名の生徒に3～4組の親子が入り、コーディネーターとして市内の子育て支援拠点(おやこDE広場、子育て支援センター)の専門スタッフが入り双方に充実した体験ができるようなサポートをする。</p> <p>※中学生向けの体験学習については、松戸市子育て支援課にて所管し中学校及び子育て支援拠点事業者と協力して実施している。</p> | | ○ |
| | 2 | 生徒向け講演会の実施 | <p>助産師や保健師による生徒向け講演会を開催する。</p> <p>命の大切さや子育ての大変さを改めて知ること、子育てへの理解を深めるとともに自分が生まれてきたことに対する感謝の気持ちと周りの家族の思いを考える機会としてもらう。また、お互いの性を尊重することが、自分自身を大切にすることや他人も大切にすることにつながるため、そこから自己肯定感を持つ機会としてもらう。</p> <p>赤ちゃんの発達や出産、子育てを中心とした内容から、生徒たちに身近な思春期の心と体について理解できる内容とする。また、一般的な赤ちゃんへの理解だけでなく「育てられてきた自分」を振り返り、これから「育てる自分」に対する想像を、ネガティブな経験も含めて生徒がそのままの気持ちを受け止められる内容とする。</p> | | ○ |
| | 3 | 支援者向け研修会の実施 | <p>中高生と乳幼児のふれあい体験事業を推進するため、本市の子ども子育て支援関係者や、学校関係者を対象に研修会を実施する。研修会の内容としては以下を予定している。</p> <p>(1)本市の中高生と乳幼児のふれあい体験の目的の説明する。</p> <p>(2)思春期の子どもにとっての「ふれあい体験」の必要性や思春期の子どもとの関わり方等について、助産師や保健師等を招き講演会を開催する。</p> <p>(3)ふれあい体験を実施した事業者から事例紹介をしていただき、未実施の事業者や学校への事例共有の場を提供する。</p> | ○ | ○ |
| <p>【次年度以降に向けた事業の方向性】</p> <p>新型コロナウイルス感染症による事業への影響を考慮し、講演会や研修会のオンライン開催や直接触れ合う体験の代替イベントの検討等し、コロナ禍においても事業が継続できるよう体制を検討する。</p> <p>体験後の生徒・参加保護者アンケートや、講演会後生徒アンケート、支援者向け研修会アンケートに基づき、より充実した事業となるよう内容の検討を行う。</p> | | | | | |
| <p>【事業内容を検討する上で参考とした既存事業】</p> <p>なし</p> | | | | | |

| 少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)4 | KPI項目 | 単位 | 目標値 | 現状値 |
|--------------------------------------|--|------------------------------|------------|-----------------|
| | | 中高生と乳幼児のふれあい体験事業実施校数(うち、高校分) | 校 | 5校(令和11年度) |
| 参考指標 ※(注)5 | 項目 | 単位 | 直近の実績 | |
| | 合計特殊出生率 | | 1.28(令和元年) | |
| | 婚姻件数 | 件 | 2393(令和元年) | |
| | 婚姻率 | | 5.0(令和元年) | |
| 個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)6 | KPI項目 | 単位 | 目標値 | 現状値 |
| | アウトプット | | | |
| | ふれあい体験参加生徒数 | 人 | 800 | 753(R2. 3. 31) |
| | 事業開催募集高校数に対する希望校数の割合 | % | 100 | 25(R4. 1. 1) |
| | 生徒向け講演会参加生徒数 | 人 | 600 | 128(R4. 11. 17) |
| | 支援者研修会参加者数 | 人 | 60 | 45(R2. 3. 31) |
| | アウトカム | | | |
| | 実際に乳幼児と触れ合っ、乳幼児に親しみを感じた生徒の割合 | % | 80 | |
| | 体験を通し、子育てへのイメージを持つことができた生徒の割合 | % | 80 | |
| | 体験参加生徒の満足度 | % | 80 | |
| | 講演から子育てに対する理解が深まった生徒の割合 | % | 80 | 96(R4. 3. 31) |
| | 講演から命の大切さを理解し、自分自身や周囲の人々を思いやる気持ちが必要と感じた生徒の割合 | % | 80 | 96(R4. 3. 31) |
| | ふれあい体験の目的を理解した支援者の割合 | % | 80 | |
| | 研修会参加支援者の満足度 | % | 80 | |
| 他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)7 | 県教育委員会との連携(市内県立高校での実施) 千葉県との連携として「千葉県ホームページでの掲載及び、千葉県で運用している「チーパス・スマイル(スマートフォンアプリ及びウェブサイト)」を活用し、事業の周知を図る。 | | | |
| 民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)8 | 連携について ・体験実習見守りスタッフ派遣については地域のNPO法人との委託契約を実施。 ・事業を進めるにあたり地域のNPO法人との連携を図り、研修なども実施。 役割分担について 松戸市:乳幼児の親子の募集広報・日程調整・通知、学校との連携調整。 NPO法人:体験時に専門の知識を持つ子育て新拠点のスタッフをコーディネーターとして派遣。生徒と乳幼児親子の双方向に良い体験を提供する。 | | | |

(注)

1「対象経費支出予定額」には、本交付金の対象外経費を除いた対象経費支出予定額(補助率を乗じる前の額)を記入すること。また、金額の根拠となる資料(見積書等)を添付すること。

2「自治体における少子化対策の全体像及びその中で本個別事業の位置付け」には、次の①～③を記載すること。ただし、結婚新生活支援事業において、②③は記載不要。

①これまでの自治体における少子化対策の全体像及びその効果検証から浮かび上がった地域の実情・課題と、それらを踏まえた、自治体における少子化対策の全体像及びその中で本個別事業の位置付け

②本個別事業が継続事業である場合はこれまでの事業実施状況及びその中で見つかった課題(新規事業である場合は不要)

③本個別事業が新規事業である場合は地域における実情と課題への対応、継続事業である場合は本個別事業における現状と課題への対応

3「個別事業の内容」には、本個別事業の具体的内容を記載すること。

※個別事業を次年度以降も自立的に発展させるため、事業内容の末尾に必ず次年度以降に向けた事業の方向性を記載すること(結婚新生活支援事業においては記載不要)。

※事業内容を検討する上で参考とした既存事業があれば、都道府県名又は市町村名、事業名を記載すること(結婚新生活支援事業においては記載不要)。

4「少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」については、自治体の少子化対策全体のKPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体は少なくとも令和5年度終了時点で、各自治体において効果検証を実施すること。

5「参考指標」には、各自治体の合計特殊出生率、婚姻件数、婚姻率を記載すること。

6「個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」には、自治体における少子化対策の全体像の中で本個別事業の位置付けを踏まえ、KPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体において効果検証を実施すること。

※過去に関連する事業を実施している場合は、過去に設定したKPIを踏まえたKPIを設定すること。

※結婚支援センター事業を実施する場合は、参考として直近年度の「会員登録数」「引き合わせ成立者数」「カップル成立組数」「成婚数」を記載すること。

7「他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を他の都道府県や市町村と連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記載すること。

8「民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を民間事業者との連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記入すること。